

派遣先所属 岩手県北広域振興局 林務部 森林保全課
氏 名 吉田 壮一 (よしだ そういち)
派遣期間 平成26年4月1日～平成27年3月31日

1 派遣業務の内容、現況

派遣先の岩手県北広域振興局林務部森林保全課では、主に東日本大震災津波により被災した海岸防潮堤の復旧工事に関する監督業務等を行っています。現場は県北沿岸部に位置する九戸郡野田村の「十府ヶ浦海岸」にあり、元々あった堤防は津波により全体の62%が全壊し、30%が一部損壊。また、堤防の背面にあった約12ヘクタールものクロマツの防潮林はそのほとんどが流されてしまいました。このため、震災翌年からその復旧工事が始まり、現在は全体復旧延長1,339mのうち270mの間の防潮堤本体がほぼ立ち上がり、順次残りの工事を行っています。復旧工事は全体を4つの工区に分けており、このうち2つの工区が完了しています。今残りの2つの工区を同時並行で進めています。そのうち1つを前任者から引き継ぎました。担当する工事の工期は今年度末までですが、岩手県が公表している社会資本に関する復旧・復興ロードマップに示された工程表では、平成27年度末までに全体の復旧工事を完成することになっており、工事の順調な進捗が求められています。



防潮堤造成工事

担当している防潮堤造成という「海岸工事」は、海なし県の林業職にとって当然ながら初めての経験です。新鮮さもありますが、自分自身工事経験が少ないということもあって分からないことも多く、職場の方々からいろいろ教わりながら、また、自分なりに試行錯誤しながら、日々復興事業に従事しています。現場で被災者の方に直接対する機会はほとんどなく、直接地元の方に防潮堤に対する考えを聞くことはありませんが、防潮堤造成工事は規模も大きく注目される場所でもあります。岩手県の復興基本計画にある3つの原則のうちの一つ「安全の確保」のため、少しでも貢献できるよう派遣期間終了まで引き続き業務に取り組んでいきたいと思っています。



海側から望む防潮堤の復旧状況

2 復旧・復興状況や被災地での見聞・感想

ここ三陸沿岸には三陸鉄道という第三セクター方式の交通機関があります。担当する現場の脇に沿って走るこの鉄道は、津波で線路が流されるなど甚大な被害を受けましたが、今年の4月、震災発災から3年を経て全線運行再開となりました。地元住民にとって貴重な交通手段であり、観光客に人気のこの鉄道には復興のシンボルとしての役割が期待されています。



地元住民や多くの観光客を運ぶ三陸鉄道（北リアス線）

復興の進捗も、自治体職員の不足、労働者や建設資材の不足、用地取得期間の長期化などにより当初の工程と比べ遅れが生じます。岩手県が行った住民アンケートでは、被災者の生活や地域経済については50%あまりが回復していると回答しているのに対し、災害に強い安全なまちづくりについては、達成したとの回答は約25%となっています。回答には地域差があるものの、住民意識としてはまだ道半ばという感じです。岩手県では平成26年度から平成28年度までの3年間を『本格復興期間』と位置付けており、これから目に見える復興が進んでいくものと思われ